

## 第17回県西地域活性化推進協議会 結果概要

(R6.3.28 10:00~11:30 小田原合同庁舎)

### ○ 開会

### ○ 知事あいさつ

#### 黒岩知事

本日は大変お忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただき、心から感謝申し上げます。

令和3年3月に県西地域活性化プロジェクトを改正してから間もなく3年が経過し、年度末で計画期間終了を迎える。

昨年11月に開催した本協議会では、県西地域活性化プロジェクトの改定素案について、皆様にお諮りし、「かながわ県西での“心地よい”暮らし～つながり×未病改善のライフスタイル～」をめざすすがたとして、改定に向けた作業を進めていくこととした。

また、改定後の取組として、移住・定住をさらに促進していくとともに、引き続き、移住・定住につながる関係人口の創出や、周遊促進などによる交流人口の増加、未病改善の取組について、力を入れていくこととした。

そして、県では、11月の協議会でいただいたご意見などを踏まえ、具体的にどのような事業としていくのか、改めて検討を行い、改定案を作成した。

改定案の詳細については後ほど事務局から説明するが、事業の再設定やKPIの設定を行ったほか、個別プロジェクトについて主な取組内容の記載を行った。特に、未病改善の取組として、県西地域を「未病の戦略的エリア」として、「未病いやしの里の駅」をはじめとする地域資源を活用した取組を引き続き行うほか、新たにme-byo エクスプラザにVRサイクルを導入するとともに、未病バレー「ビオトピア」を活用した地域イベントなどを行っていく。

本日は、次期プロジェクトの改定案について、11月に示した改定素案からの変更点や、今後実施する予定の事業などをご説明し、皆さんから率直なご意見を頂戴したい。

また、本日は、今年度の取組状況と来年度の取組内容について、委員の皆様からもご報告いただけるとのことなので、協議会で情報を共有し、情報交換したい。

限られた時間であるが、忌憚のない議論をお願いしたい。

### ○ 議題

- (1) 県西地域活性化プロジェクトの改定について
- (2) 令和5年度の県西地域活性化プロジェクトの取組状況について
- (3) 令和6年度の県西地域活性化プロジェクトの取組について

市町、事務局から説明※。

(※) 小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町及び事務局

## ○ 意見交換

### 《議題(1) 県西地域活性化プロジェクトの改定について》

意見なし

### 《議題(2) 令和5年度の県西地域活性化プロジェクトの取組状況について》

### 《議題(3) 令和6年度の県西地域活性化プロジェクトの取組について》

#### 黒岩知事

本日から海上交通（海上タクシー）が始まった。25日に湘南港でオープニングセレモニーがあり、海上タクシーで葉山、逗子、江の島の湘南港、大磯、これらを結ぶ海からの流れができてきた中で、小田原はいつ頃になるのか。

#### 小田原市長

明るい良いニュースだと思う。いつになるのかは、すぐにでもと言いたいところだが、こういった機運は過去にもあり、その後、少し沈んでいたが、コロナ前に少し機運が伸びてきたところがあり、イベント的に、例えば江の島や逗子から小田原漁港に呼び込むという考えがあった。

私も実際に乗船してみたが、小田原漁港や小田原城などを海から見ることができ、釣り人や漁業関係者は経験があるかもしれないが、一般の方にはすごく新鮮な気持ちになると思う。

今回の県西地域活性化プロジェクトにも盛り込まれているこの実証実験は、本当に定期航路化されることを期待している。私も1回乗船して小田原漁港に入ったが、波が荒いため安全対策をしなければいけないと感じた。その際、船長さんが慣れておらず、船を付けられなかったところ、小田原市漁業協同組合の高橋組合長が着岸してくださった。さすが、海のことをよく知っていると思った。海の魅力である、海岸線が長い、そして砂浜がある、港がある、また山があるというところを、多くの方に知っていただくことでつながっていく。今日の資料にも、どうやって湘南や三浦の方から県西につなげていくかということが書かれている。是非、一緒に取り組んでいきたい。

#### 小田原市漁業協同組合 高橋組合長

今までは漁港は、漁業生産基地という確固たる目的がないと使ってはいけなかった。そのため、クルーズ船を入れるには県にお伺いを立て、県は国と調整をして了承をもらっていた。

しかし、今後は、海業（うみぎょう）という言葉により、旅行やツーリズム観光にクルーズ船を使ってもよくなった。そのため、海上交通や大型のプレジャーボートによるリゾート施設との併用もできるようになった。

県西地域には小田原漁港以外に岩漁港と福浦漁港がある。真鶴港は神奈川県の手轄で商港である。既に真鶴港はクルーズ船（を収容するヨットハーバー）を持っているが、小田原漁港・岩漁港・福浦漁港は許可がないとクルーズ船ができない。それが緩和されたことによって、今後、色々なことができる。是非、県でも活用していただ

るとありがたい。

## 中谷政策局長

県でも、小田原漁港を活用できないか、来年度、調査を始める。具体的に申し上げると、令和6年度は可能性調査と称してクルーズ船を受け入れるための基礎的な情報を整理するとともに、漁業者とも関係を構築していきたい。

その際、地元の漁業組合の皆様と打ち合わせをしてクルーズ船が寄港できるような形を整えていきたい。守屋市長からお話があった平成29年から令和元年は実証事業として実施してきた。現時点では漁業者の皆様が優先となり、波が荒いとき、入港する場所がなかなか確保できず、どうしても波の影響を受ける所でしか寄港できないので、漁業者の皆様とメリットを共有して場所を確保していきたい。

## 小田原箱根商工会議所 鈴木会頭

海のことを取り上げていただきましてありがとうございます。

相模湾沿いに商工会議所が7つあり、5年前、14団体に声をかけ「相模湾からの経済活性化会議」という名前の任意団体を立ち上げ、勉強会を重ねてきた。そういった活動の一環として先ほどから話題になっている、湘南港から小田原のクルーズを実施していた実績がある。しかし、コロナで大分ストップしてしまったので、来年度から再スタートすべく4月16日に、リビエラ逗子マリーナさんのご協力をいただきながら、14団体が全部集まり、もう一度この海を生かしたまちづくりについて、それぞれが連携する再スタートをしたいと思っている。県の方とも連携をとらせていただきたいのでよろしくお願ひしたい。

## 黒岩知事

神奈川の海の魅力をもっともっと高めていくことを目的とした「かながわシープロジェクト」が10年以上前にスタートした。海に関係する方々が多く関わり連携している。

その中で、具体的な話として、ダイビングをやる人たちと漁業関係者がうまくいかないという話があった。そのような中、小田原市漁業協同組合の高橋組合長は、ダイバーと漁業者と一緒に協力していくべきだという話をされた。その後、ダイビングで使用する船を漁業関係者の方が出してくださるようになったという話がある。融合はかなり進んできているので、更に進めていきたい。海上タクシーが大磯まで来ているので、小田原や真鶴まで行くことで、全部海でつながることができる。

また、湘南国際芸術祭というアイデアがあり、第1回を逗子マリーナで開催した。海で回りながら芸術祭をやる仕掛けも進んでいるので、1日も早く実現を目指している。

それぞれの地域が「未病の戦略的エリア」として、創意工夫をしながら様々なことを実施していることがよく分かった。

その中で、外国人の移住・定住についてはいかがか。例えば、ベトナムと神奈川県は太いパイプがあり、2015年からベトナムフェスタ in 神奈川を実施している。

KANAGAWA FESTIVAL in HANOI も 2018 年から実施している。そこでは、小田原の風魔忍者ショーに活躍していただいている。ベトナムの要人（書記長・首相・国家主席・等）の方々との会談の中で県が取り組んでいる未病をプレゼンテーションしたところ、大変な共感を得た。今秋にでもベトナム政府と未病に関する覚書を結ぶ流れができてきている。

今、県内外国人の人数は中国人に次いでベトナム人が多い。そのため、ベトナムとのパイプが太くなると、ベトナムからの移住希望者も増える。また、この2つのフェスティバルでは、経済セミナーや観光セミナーを実施し「ME-BYO」という言葉を PR している。このような県の未病の戦略的エリアへ来てもらう流れをうまく活用して連携していきたい。

### 小田原市長

外国人向けの移住・定住はまだそんなにやっていないが、地域のコミュニティに溶け込むことは大切。そのため、令和5年度は FM ラジオで、ベトナム語で日常生活に必要な情報を発信した。警察関係の方からも、外国人の方にも地域の住みやすさ、我々にとって当たり前のことをしっかりと伝えるということは非常に重要だということをお伺いした。

一方で、介護事業所に訪問した際、外国人の方を雇用して、資格を取ると県外に出ていってしまうという話があった。流出の理由は、介護報酬の違いではなく、移住先の場所に住みやすいといううわさがあり、特定の国の方が出ていってしまうとのこと。

まちの住みやすさにより、居住地が選択される現実をまざまざと突き付けられたため、課題として取り組んでいきたい。

### 黒岩知事

移住・定住では、外国人も視野に入れながら、外国人の方々がコミュニティに溶け込むことができるような仕組みも同時に考えていく流れが必要。

### 小田原箱根商工会議所 鈴木会頭

商工会議所の直接の事業ではないが、小田原市には小田原海外市民交流会があり、小田原市が姉妹都市になっているカリフォルニアと 30~40 年間青年の交換留学をやっている。小田原には、約 3,000 人の外国人が住んでいる。

そうした人と小田原市民がもっと交流をしていくべきだと思い、昨年度から、「YOU はどうして小田原に」という企画で、小田原在住の外国人の方に 3 人から 5 人ずつ集まってもらい、どうして小田原にいるのか、どうして小田原を選んだのか、何かお困り事はないかなどの質問をするコミュニケーションの場を作っている。今、大体 100 人ほど集まっているため、SNS でつながりながら、コミュニティを作っていこうと思っている。外国人のコミュニティに小田原市民が加わる形でいろいろなコミュニケーションが取れると思っている。

中には、東京でビジネスをしているが小田原でもビジネスをしたいという声も増えてきている。上手く、小田原海外市民交流会と商工会議所が連携しながら公民連携で

進めていきたい。

### **黒岩知事**

神奈川県内には170か国以上の方が住んでおり、国際色が豊かな県であるため、かながわ国際ファンクラブを作っている。移住の際、住まいや職業、医療、教育の問題など、色々悩むことがあるため、それをみんなで支えることで、県内に住んだ外国人が母国へ帰る時には、神奈川県ファンになってもらうという思いを込めて、かながわ国際ファンクラブを作った。県西部でも同様の動きがあれば、先ほどの話につながるかもしれないので連携しながらやっていきたい。

### **株式会社ブルックスホールディングス 小川代表取締役社長**

先日、小田原駅に行ったところ、多くの外国人がいた。少し駅員にインタビューしたところ、京都と箱根を行き来しているとのこと。京都と箱根は外国人にとって絶対に行かなければいけない場所になっている。是非、この外国人の方々に他の県西地域の市町にも寄っていただきたいと感じている。これだけ外国人が行き来しているのであれば、移住・定住もあり得る、魅力のある地域だと思う。

また、ビオトピアとしても、フランスの同じ名前の施設と協定を結んでいる。フランスでもサイクリングやシープロジェクト、ヨットレースなどの取組が盛んに行われている。是非、アジアや欧米の方に、県西地域を知ってもらいたい。

### **黒岩知事**

まさにお互いの良いところをつなげていくことで、県西全体を活性化させていきたい。本日はどうもありがとうございました。

### **○ 閉会**